日本教育新聞　2017.12.18　8面掲載

# 子ども主役、次世代の学びへ

## 大阪教育大学附属平野小学校

## 最先端ICT、利用上のルールも

「BYOD」―。あまり聞きなれない言葉が研究のキーワードの一つになっている大阪教育大学附属平野小学校（塚田秀校長、児童423人）。「BRing Your Own Device」の略称で、教育活動で自らが所有するスマートフォンやタブレットなどの情報端末を活用することを意味する。（公財）パナソニック教育財団の特別研究指定校として、近未来を見据えた最先端のICTを活用した取り組みについて紹介する。

全普通教室には電子黒板があり、タブレット端末は200台以上を保有している。ICT機器の活用は、調べた内容や資料の視覚化・共有化を図ることを目的に置いている。Wi-Fi環境の下、授業では学び合いを支援するソフト「ロイロノート・スクール」を活用。さらにタブレット端末は家庭学習でも活用している。目指すは「子どもが主役になる次世代の学び」だ。

ゲストティーチャーの前でヒアリについて調べたことを発表した

英語を使って自己紹介の動画作りに取り組む児童ら

現在、情報機器の活用に当たって使い方を含めたガイドラインを作成している。将来的に、子ども（家庭）が持つ私的端末を使うことを想定しているためだ。その際、学校・保護者・子どもの間で、情報端末を使う上での共通理解が必要となる。情報端末を利用するためのルールやモラルを理解できる内容を扱う方針だ。

同校は文科省研究開発学校の指定を受け、新教科「未来そうぞう科」の開発にも取り組んでいる。「そうぞう」の言葉には、①と②のような状況でも希望に満ちあふれた未来を「想像」し、そのような未来を「創造（クリエイト）」することを意味している。

しかし、こうした取り組みを導入するまでのセキュリティー面への配慮、情報モラル指導など、さまざまな葛藤があったはずである。教育の情報化における国内の代表的なモデルとなり得る研究として、一連のプロセスや今日までの成果を集約していただきたい。

近未来社会を想定し、附属平野小学校では「BYOD」体制を全国にICT機器の活用に取り組んでいる。質量の高度化、授業と家庭学習の連携など、タブレット端末を家に持ち帰ることを前提にして授業づくりを行っている学校は全国でもまれである。

畳田　充崇 和歌山大学大学院教授

### 家でも学習の続き、プロセス・成果の集約を

また、保護者が端末を介して学習に参画し、児童らの学びに広がりや深まりをもたらしているのも特色であるといえる。

同校の子どもたちは一人一人にクラウドサービスへのアカウントが付与されている。そのため、いつでもクラウド上に保存しているデータ・写真・動画などにアクセスできる。それは、学校で取り組む学びの続きを家庭でも行うことができるプロセスや今日までの成果を集約していただきたい。

### 主体的・協働的・創造的実践力養う

の二つの意味合いを込めた。育成すべき資質・能力として、「主体的実践力」「協働的実践力」「創造的実践力」の三つを設定。各教科・領域でも「未来そうぞう」をテーマとし、新教科「未来そうぞう科」と関連を図りながら研究開発を進めている。

ICTの活用に関して、「未来を『そうぞう』する子ども」の育成に関わる学びに効果的と考えている高校。「学び合いとしてのICT活用」は「協働的実践力」につながり、「ICT機器をどのように活用すべきか」の視点で考えればが「創造的実践力」にもつながっていくためだ。

例えば、パナソニック教育財団の研究指定事業を担当する松浦智中教諭は、4年「未来そうぞう科」の単元「ヒアリ問題を考えよう」に取り組んでいる。本年度、日本各地でクローズアップされた特定外来生物「ヒアリ」。この特定外来生物から「未来の環境を考える子どもたちを育てたい」と考え、新しいカリキュラムの開発に着手した。

ヒアリだけでなくアライグマやネズミ科のストーリアなど、身近に特定外来生物がいることに驚きを隠せなかった子どもたち。日本の安心・安全を脅かす「ヒアリ」について調べ、問題点がどこにあるのかを考えた。

市立環境科学研究センターなどからゲストティーチャーを招き、新たな疑問に加え、学びを深めるような質問も誕生。クラウドに対応しているロイロノートを使い、個人ID でログインすれば学校で編集した内容を家庭で再編集することができる。それをグループで共有し、プレゼン資料を作成・発表する計画だという。

4年生の外国語活動「Girls Be Ambitious」の授業では、事前にタブレット端末に子どもたちが書いたヒーローやヒロインの画像を読み込んでおいたものを使用。慣れ親しんできたキーワードやセンテンスを使い、それを録音しながらヒーローやヒロインになりきった自己紹介を行う動画作りに取り組んでいる。この他にも、各教科・領域などでICT機器を活用した実践事例はたくさんある。

同校は来年2月9、10の両日、教育研究発表会を実施する。ICT機器を活用した授業に加え、「未来そうぞう科」の授業も公開する。

附属平野小☎06・6709・1230